

家畜市場再編問題

への対応は



前野 浩司議員

前野 浩司議員 本町の船木にある「薩摩中央家畜市場」が、現在地に移転し、早十二年になる。

この間、隔月開催の子牛セリをはじめ、郡や県の畜産共進会も開催されてきた。本市場の子牛セリでは、他の市場比べて高値で取り引きがされており、家畜流通の拠点となっているが、最近の利用状況を示せ。

家畜市場は 畜産振興の拠点

北村町長 平成四年に家畜市場再編整備事業により、現在地に移転開設さ

れ、子牛セリを中心に開催されている。本年の四月セリでは、全国一の価格で取引がされた。平成十五年度の取り扱い額は三八億八千万円で、うち子牛が、五、八五五頭で二四億八千万円であり、「さつま牛」の銘柄確立をめざす畜産振興の拠点となっている。

統合による

メリット等は

前野議員 薩摩半島にある七家畜市場を、五年後をメドに統合する計画があるようだが、再編計画の概要を示せ。また、統合により畜産が盛んな本町にとって、どのようなメリット等が考えられるか。



船木にある「薩摩中央家畜市場」

薩摩中央統合への メリットは大

町長 県経済連では、平成十五年度から、本県家畜市場の再編整備について検討が進められてきている。そのなかで、取り引きの多量化、セリ開催日数、市場の安定性等を

考慮して、現在七つある家畜市場の統合が計画されている。薩摩中央市場に統合されると、子牛取り引き頭数二万七千頭と、全国有数の市場となる。毎月の子牛セリ開催、新たな購買者の参入等により価格安定、農家所得向上や生産意欲増大、さら

には、「さつま牛」の銘柄確立につながっていくものと思われる。薩摩中央に統合されない場合は、家畜の輸送コスト増加等による生産者減少や「さつま牛」のイメージダウン等が懸念される。

市場再編の 進捗状況は

前野議員 市場再編の進捗状況はどうか。

誘致に向けて 強力に進める

町長 まだ、決定には至っていない。今後、七家畜市場の関係者による協議がなされていくと思う。現在、町・農協・畜連・関係機関とプロジェクトチームを立ち上げ、対応をしているところである。薩摩中央家畜市場への誘致に向けて、強力に押し進めていきたいと考えている。